

安心・安全のまちづくりをめざして 川内原発3号機増設中止を求めて

まつざき真琴

県議会ニュース

5月11日、県議会は、全員協議会において、川内原発の緊急安全対策について九州電力からの説明を受けました。

まつざき真琴県議は九州電力に対して、原発の危険性や3号機増設についての考えを質問しました。

原発の安全対策の前提となるのが、「原発は危険」という認識です。まつざき真琴県議の質問に対して、「危険」という言葉は使いませんでした。が、「安全神話」が崩れたことは事実だと認めました。

また、周辺自治体や住民から寄せられている「3号機増設は凍結を」という声に対して、九州電力の見解は、全くの国まかせの姿勢であることも明らかになりました。

3号機増設を止めさせるためにも、政府に、エネルギー政策を原発依存から再生可能な自然エネルギーの導入・促進へと転換を迫っていく運動を広げていくことが、いよいよ求められています。



質疑応答の要旨



●今回の福島第1原発での事態で、原発は危険なものだということが明らかになった。「安全神話」は崩れたと言える。「原発は危険である」という立場に立ってこそ、本当に安全対策がとられる。「原発は危険なものである」という認識に立っているか。

→「安全神話」が崩れたと言われているが、これは事実である。自分たちができることは、絶対にこういう事故が起きないように多重防護をとり安全対策をすすめることであると考えている。原子力は安全に運転すれば大丈夫だと思っている。出来ることはしっかりとやり、原子力を安全に運転しなければならない。(山元春義九州電力川内原子力総合事務所長)

●いくつもの自治体や団体から、3号機増設について「凍結してほしい」という要望が出されている。九州電力として、その声をどのように受け止め、どう対応されるつもりか。

→国で審査中であり、国の方針を見守りたい。国の指針や指導などをみながら川内3号機の取り扱いを適切にやっていかないといけない。国から安全対策の追加があると思うが、それはしっかりとこたえていく。(同上)

伊藤知事へ申し入れ 3号機増設反対を!

5月13日、日本共産党も参加する「原発の危険に反対する鹿児島県連絡会」では、伊藤知事に対して、川内原発3号機増設に反対することや、再生可能な自然エネルギーの活用を進めること、さらに、食料やエネルギーなどの地産地消を図ることなどを求める申し入れを行いました。



ごあいさつ

4月の県議選挙で、多くの方にご支援をいただき、県議会での日本共産党の1議席を守りぬくことができました。

引き続き、「県民こそ主人公」の立場で、県政の問題点や税金のムダづかいを厳しくチェックし、住民の暮らしや福祉最優先で、安心・安全に暮らせるまちづくりをめざして全力で頑張ります。

ご意見やご要望をぜひお寄せください。



常任委員会決まる

今年度の所属の常任委員会が決まりました。産業経済委員会です。(農政部、商工労働水産部、観光交流局の分掌に関することを扱います。)

6月議会は、6月中旬から始まりです。ご意見やご要望をお寄せください。